

PRESS RELEASE

アブドゥル・ラティフ・ジャミール貧困アクションラボ、国際協力機構、プラサム教育財団が教育についての公開シンポジウムを東京で共催、アフリカ内外における協力強化の覚書に署名

- アブドゥル・ラティフ・ジャミール貧困アクションラボが国際協力機構、プラサム教育財団と共催する初めてのイベント
- JICA 主導による一連のミーティング、ワークショップは、東京大学との保健・教育についての公開討論会をもって終了
- 三者はアフリカ内外における教育分野での業務協力協定を締結

2018年6月21日、東京: アブドゥル・ラティフ・ジャミール貧困アクションラボ (J-PAL)、国際協力機構 (JICA)、インドを本拠地とする教育 NGO のプラサム教育財団は、アフリカでの教育と保健の分野におけるエビデンスに基づいた政策立案を紹介する一連の会合を東京で開催しました。

メインイベントは水曜日に JICA 国際会議場で行われた公開シンポジウムで、J-PAL 政策・コミュニケーション局長のジョン・フロレッタ、スタンフォード大学准教授で J-PAL 保健セクター共同議長のパスカリン・デュパス、JICA 人間開発部基礎教育第二チーム課長の小塚英治氏、プラサム教育財団 CEO のルクミニ・バネルジ氏が日本の学術機関、政府系機関、NGO からの 160 名の出席者に向けて講演を行い、J-PAL とプラサム教育財団の教育分野における最新の研究結果を発表しました。J-PAL とプラサム教育財団は JICA の人間開発部基礎教育チーム主導のもと、非公式な会合やワークショップも行い、デュパスは東京大学でセミナーも開催しました。

一連の会合の集大成として、J-PAL、JICA、プラサム教育財団の三者は教育分野でのアフリカにおける業務協力協定を締結しました。このコラボレーションにより、「習熟度別のクラス編成 (TaRL)」プログラムや「みんなの学校」プログラムといった学習の危機に効果的且つ効率のよいアプローチをスケールアップさせる取り組みを、アフリカで始めます。J-PAL とプラサム教育財団は最近ではザンビアで大掛かりな TaRL 導入をしました。TaRL はプラサム教育財団がインドで始めたプログラムで、J-PAL の厳密な科学的アプローチによりインパクトを評価され、両者のコラボレーションにより効果が高められました。さらに、現在 JICA は、マダガスカルやニジェールでコミュニティを巻き込んだの救済教育を通じて基礎的な読み書きと算数の能力を向上させようと、「みんなの学校」プログラムに TaRL を取り入れる試験的なプロジェクトにも取り組んでいます。

J-PAL は、貧困の根本原因や、保健、教育、若年層雇用、紛争、ガバナンス問題に取り組むため、コミュニティ・ジャミールの支援とパートナーシップにより、2003 年、マサチューセッツ工科大学に社会事業組織として設立されました。

「J-PAL のインドでのプラサム教育財団との先駆的な教育研究である『習熟度別のクラス編成』プログラムは、今ではザンビアで規模を拡大して導入され、世界中の何百万人もの子供たちの学習成果改善に貢献しています。アフリカ内外での開発援助事業で優れた実績を有する JICA とのコラボレーションにより、J-PAL の研究とプラサム教育財団の教育活動の影響力や効果はさらにスケールアップすることでしょう」と、コミュニティ・ジャミール・インターナショナル代表のファディ・ジャミール氏は述べています。

J-PAL は中東で積極的に活動し、サウジアラビア、エジプト、ヨルダン、レバノン、モロッコで政策策定をサポートする研究プロジェクトや現地パートナーシップを行い、これらの研究で得た知見を世界中の政策立案を支援するために活用してきた実績があります。

今日では、J-PAL と提携している研究者たちは 860 以上の評価測定を 80 か国以上で行っており、J-PAL の評価測定で有効と認められたプログラムは 3 億人以上の人々に適用されています。J-PAL は開発介入におけるランダム化評価の数と質の向上に役立っています。

TaRL 紹介ビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=xe0hwbC78xo>